

サーキュラーエコノミーとは?!

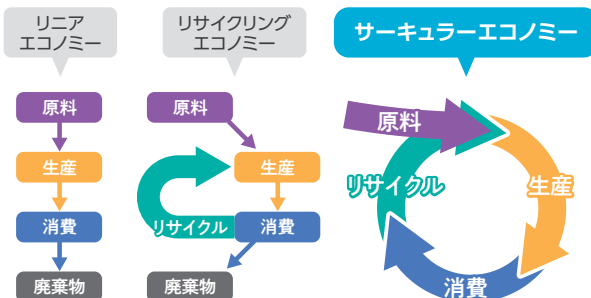
従来の大量生産、大量消費型の社会経済活動は、大量廃棄型の社会を形成するだけでなく、気候変動や天然資源の枯渇など、さまざまな環境問題にも密接に関係しており、世界的な課題となっております。

このため、資源やエネルギーを大量に消費するこれまでの一方通行型のリニアエコノミーから、製品を製造する段階から再利用やリサイクルしやすい設計にするなど、廃棄を前提としない、持続可能な資源利用を進める、「**サーキュラーエコノミー(循環型経済)**」への移行をめざすことが世界の潮流となってきております。

環境SDGsおおがき普及支援センターでは循環型社会をめざし、こうした「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」の普及啓発を進めていきます。

■ サークュラーエコノミーの考え方

大量生産 大量消費 >> 現在の3R >> 循環型経済



サーキュラーエコノミーは、円を描くように資源を循環させ、廃棄物や汚染を生み出さない経済活動のことで、SDGsやカーボンニュートラルにも貢献します。

引用/オランダ政府「From a linear to a circular economy」より

サーキュラーエコノミーに関連するSDGsのゴール



大垣市は、循環型社会をめざし
サーキュラーエコノミーの普及啓発を
進めていきます。

■ 案内図



【開所時間】 8:30~17:15

【休館日】 毎週土・日曜日・国民の祝日
年末年始

環境SDGsおおがき普及支援センター

大垣市クリーンセンター内

〒503-0847 岐阜県大垣市米野町3丁目1
(TEL) 0584-47-8130 (FAX) 0584-47-5422



環境SDGsおおがき普及支援センター



OGAKI CITY

ごあいさつ

SDGs(持続可能な開発目標)は世界共通のめざすべき目標であり、本市におきましても、それぞれの分野で積極的に取り組んでいるところでございます。

とりわけ、環境の分野におきましては「環境SDGsおおがき推進プロジェクト」として、市民や事業者の皆様と協働して、未来の大垣を担う人材を育成する「環境SDGsおおがき未来創造事業」をはじめ、循環型社会をめざす「草木や生ごみ等たい肥化推進事業」や、カードゲームなどを活用し、楽しみながらSDGsを学ぶことができる「環境SDGsおおがき普及啓発事業」を展開しているところでございます。

このたび、更なるSDGsの普及啓発や情報発信の拠点として大垣市クリーンセンター内に「環境SDGsおおがき普及支援センター」を開設いたしました。このセンターを拠点に、産官学民が

連携し「誰一人取り残さない、持続可能なまちづくり」を推進してまいります。

令和4年6月

大垣市長 石田 仁

環境SDGsおおがき マーク説明



「水の都」と呼ばれる大垣市がSDGs達成をめざすコンセプトマーク。17の目標がどれ一つ、誰一人取り残されることなく未来へ一つになって向かっていくことを表しています。周りには水滴や木の葉が舞い、豊かな自然と発展してきた大垣市がこれからも、自然の豊かさを守っていくという決意を示しました。環境SDGsおおがきマークは市の刊行物での掲載や事業に利用し、啓発に活用しています。

未来のおおがき人を育成 環境SDGsおおがき 未来創造事業

高校生が大垣の未来について考える。

環境SDGsおおがき未来創造事業

次代を担う大垣地域の高校生を対象に、SDGs未来講座などを地元企業と連携して実施しています。急激な人口減少や少子高齢化が進展するなか、高校生世代が将来にわたって「住みたくなる、働きたくなる」大垣の未来について考え、「選ばれつつけるまち おおがき」を実現するための企画提案の発表会などを開催します。



SDGsカードゲームで 楽しみながら学ぶ。

環境SDGsおおがき普及啓発事業

SDGsカードゲームを利用した体験学習講座を開催し、市民のみなさんが楽しみながらSDGsを学ぶことで、日常生活のなかに環境活動を取り入れていただき、SDGsの輪を広げていくことをめざしています。

また、大垣市環境市民会議の事務局を、環境SDGsおおがきの普及啓発拠点として活用していきます。



SDGsの輪を広げよう！

環境SDGsおおがき 普及啓発事業

資源の循環をめざそう！

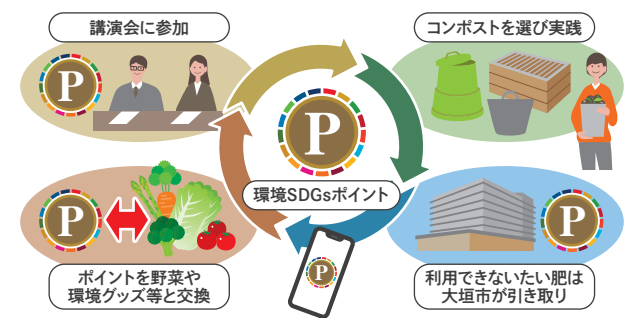
草木 及び 生ごみ等 たい肥化推進事業

生ごみのたい肥化で 環境SDGsポイント。

生ごみ等たい肥化推進事業

ダンボールコンポストなどを利用した生ごみのたい肥化によるごみの減量化や、たい肥を活用した土づくり、野菜づくりを、市民のみなさんと協働して進めます。また、こうした環境活動に付与するポイント制度を導入することで、環境にやさしいライフスタイルを支援し、SDGsの輪を広げます。

生ごみ等たい肥化推進事業の流れ



堤防の草木を循環して 豊かな土地づくり。

草木等たい肥化推進事業

堤防などを保全するために刈った草木などをごみとして焼却せず、乾燥させたあとにたい肥として活用します。草木などを資源として循環することで、豊かな土地づくりに役立てていくほか、こうしたたい肥で育ったおいしい野菜などは、マルシェで市民のみなさんにも楽しんでもらいます。

